



陸 総 号  
平成19年4月18日

国土交通省道路局長 様

陸別町長 金 澤 紘



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号をもって依頼のありました、標記について、  
別紙のとおり提出します。

(総務課企画財政担当)

## 今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

### 【 背 景 】

大都市圏では景気の回復に伴い、税等の財源が増収に転じているが、北海道の山間地に所在する当町は基幹産業の不調・過疎化促進・少子高齢化に起因して、景気の長引く低迷により、収入財源の減少は依然として続いている。

このような不況の原因として、圏域間・町村間・町村内を網羅する、広域な道路網の整備がまだまだ十分でないことに起因していると考えています。

広大な面積の中での、生活活動の活性化・日常生活の維持（高齢化の進む地域にとって道路は最大の生活の道具であります）災害への備え等のために、道路網の整備は欠くことの出来ない要素です。高速道路・国道・道々・市町村道の機能分担、機能効率を図った道路整備を強く要請します。

### ○ 高速道路網の早期整備

北海道横断自動車道 北見・小利別間（28 km）の早期完成

北海道横断自動車道 小利別・足寄間（51 km）の早期着工と完成

- 1) 農林水産物を大消費地へと輸送する日本の物流動脈であり、短絡的な費用対効果を理由とする、一部不施行区間が存在する、国の高速道路網整備には理解できない。
- 2) 平成18年4月20日、「ふるさと銀河線」北見・池田間140 kmは廃止となり沿線住民の生活道路として、さらに、オホーツク・十勝・道央・大都市圏を結ぶ、物流・観光への高速で安全が確保された唯一のルートであります。
- 3) 欧州では、平面交差がある郊外の一般幹線道路では、時速70 km若しくは80 km制限と聞かれますが、事故率が非常に少ない高速道路の現状から、我国においても建設費の削減に合わせて、最低でも時速100 kmへの緩和を図り、高速道路全体での費用対効果の向上を目指してほしい。
- 4) 既存の高速道路の活用を図るため、高速道路料金の引き下げの取り組みを積極的にすすめる必要がある。

○ 国道242号線の整備促進

- 1) 足寄・置戸間の国道242号線は、寒冷地域で、さらに多雪地域であるため冬期間の良好な路面状態が維持出来ない状況にあります。

この区間は、急カーブ・急勾配部分が多く、さらに陸別・置戸間の山間部で昼間時に日陰となる路面部分が多く、路面のアイスバーン状態が多く発生し、危険な状況であります。道路局部改良工事と良好な路面維持管理を要請します。

- 2) 陸別市街地区の国道242号線は、歩道整備と線形改良整備が19年度から工事に着手しますが、早期完了と市街地中心部の歩道はバリアフリー化を道々、町道と整合性があつた整備として頂きたい。

○ 道々の整備促進

- 1) 道々津別陸別線の冬季間における事故多発地帯の線形改良と市街地区間における改良工事の早期完成。

- 2) 道々北見白糠線（足寄側）の未改良区間の早期整備と冬季間の適正な除雪を行って頂きたい。

- 3) 北海道の財政状況も厳しさを増しているとお聞きしています。遅れている道内の高速道路網の早期整備と道々整備促進のために、道路特定財源にオーバーフローがあるならばまずは、国と都道府県の税源配分の見直しを実行してほしい。

○ 町道等の整備促進

- 1) 当町の交付税の削減と、基幹産業の不調・過疎化促進・少子高齢化等に起因して収入財源の減少は依然として続いています。そのため町道、農道、林道の新設及び改良への投資を控える状況が続いています。

- 2) 当町の17年度道路関係経費歳出は、町道等の維持管理費116百万円、投資的事業183百万円、公債費311百万円の合計610百万円です。

歳入は国費34百万円、地方債84百万円、道費13百万円で、自動車取得税交付金、地方道路譲与税・自動車重量譲与税の道路特定財源は135百万円でその為、一般財源の負担額は345百万円となっており、地方財源の悪化の要因となっています。

道路特定財源にオーバーフローがあるならばまずは、先の記載の現状から、国と地方の税源配分の見直しを実行してほしい。